

あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

朝日遺跡だより

2022年9月
vol.6

弥生時代

あいち朝日遺跡ミュージアム



観覧料

常設展も
観覧できます

区分	一般	大学生・高校生
個人	300円	200円
団体 (有料20名以上)	250円	150円

※学校行事(高校以下)及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方(1名まで)は無料

- 愛知県清須市朝日貝塚1番地
- TEL/052-409-1467
- 開館時間/9:30~17:00
- 駐車場/15台
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日



戦国時代

清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムより
清洲城まで徒歩約10分



入館料

【大人】	300円
【小人】	150円
(小中学生) ※幼児無料	

- 愛知県清須市朝日城屋敷1-1
- TEL/052-409-7330
- 開館時間/9:00~16:30
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 清洲城 共通チケット

2施設で計600円を **500円** 発券より半年間有効



古墳時代 体感!しだみ古墳群ミュージアム



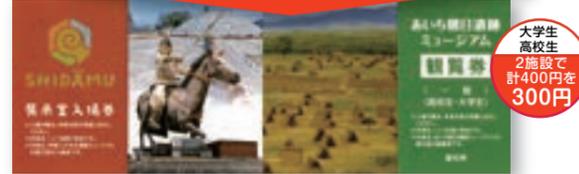
展示室 入館料

【一般】	200円
※中学生以下無料	

- 名古屋守山区大字上志段味字前山1367
- TEL/052-739-0520
- 開館時間/9:00~17:00
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 体感!しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット

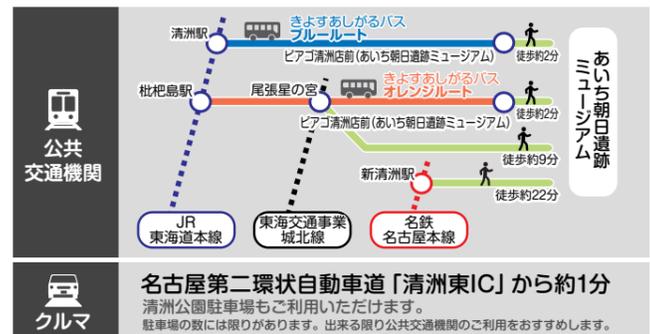
2施設で計500円を **400円** 発券より半年間有効



共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

あいち朝日遺跡ミュージアム

■愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■TEL:052-409-1467 ■駐車場 15台



新型コロナウイルス感染防止対策のため、入館時のマスク着用および、検温と手指消毒をお願いします。また状況に応じて、館内の一部閉鎖および、関連イベントを中止する場合があります。詳しくは公式WEBページにてご確認ください。



- 振り返りレポート/企画展「弥生人といきもの2022シカをねらえ!」
- 弥生ムラづくりプロジェクトレポート
- シリーズ/ミュージアム収蔵品ファイル
- アカとクロがレポートするミュージアムの見所
- 連載/ミュージアムスタッフのこぼれ話
- ショップグッズ紹介
- 古代体験プログラムのお知らせ
- 6月~8月のできごと
- お得な共通チケットのごあんない





企画展写真

企画展 振り返りレポート

— 弥生人といきもの2022 —

企画展

シカをねえ!

期間 2022年7月23日(土)～9月19日(月・祝)
場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

本展は昨夏に引き続き、夏休み期間の子ども向け展示として企画しました。いきものと弥生人の関わり方という視点から、弥生時代について紹介する展示の第2回目です。

今回取り上げた「シカ」。さすがに市街地にある当館周辺にシカは出ませんが、清須市や名古屋市では小学6年生の修学旅行で奈良に行く学校が多いこともあり、愛知県民にとっても意外となじみがある動物かもしれません。

弥生時代の研究者の間には「弥生時代を代表する動物といえばシカ」という認識があります。日本では、シカはイノシシと共に縄文時代から重要な狩猟対象でした。肉は食料に、皮は服などの材料に、角や骨も様々な道具やアクセサリの素材になる、とても有用な動物だったのです。朝日遺跡では石鏃が刺さったシカの腰骨が出土しており、当時、弓矢でシカ狩りをしてきたことがわかっています。シカの角や骨で作られた道具類も多数出土しました。

しかし弥生時代の人々にとってのシカは、単なる狩

りの獲物ではありませんでした。弥生時代の土器や青銅器には絵が描かれたものがありますが、最も多く描かれたのがシカの絵であり、日本中の弥生時代の遺跡から様々なシカの絵がみつかっています。弥生時代の絵は、祭祀に使う道具に願いや祈りを込めるために描かれたものと考えられています。つまり、弥生時代には日本中でシカは祭祀に欠かせない動物だったのです。また、弥生時代には大陸から伝わった動物の骨を焼いて占う「太占」という占いが行われていましたが、よく使われたのはシカの肩甲骨でした。このような神聖視は縄文時代にはみられない傾向で、弥生時代特有のものです。



企画展ポスター



石鏃が刺さったシカの腰骨
朝日遺跡出土(当館蔵)

シカの角製の釣針
朝日遺跡出土
(当館蔵)

ト骨(古いに使った骨)
朝日遺跡出土
(当館蔵)

絵画土器(シカと建物)
唐古・鍵遺跡出土
(田原本町教育委員会蔵)

シカ形土製品
玉ノ井遺跡出土
(名古屋市博物館蔵)

では、どうしてシカは弥生人にとって神聖な動物だったのか?時代は下りますが、奈良時代に成立した『播磨国風土記』には、シカと稲作を結びつける説話が記されています。それによると、シカは稲に豊作をもたらす霊獣だと信じられていたようで、おそらく弥生時代にも同じような信仰があったのでしょうか。

このような信仰が生まれた背景には、シカの角の性質が関係するようです。オスのシカには立派な角がありますが、実はこの角、毎年生えかわります。シカの角は春に生え始め、夏にかけて急激に成長し、秋に完成します。しかし、どんなに立派な角も春先にはポロっと頭から落ちてしまい、また次の角が生え始める、というサイクルをくり返すのです。この角の成長サイクルが稲

の生長と時期が重なることから、あやかって豊かな実りを願ったのではないかと考えられています。

本展ではこのようなシカの様々な側面を、狩りについて解説する「シカをねえ!」、シカを素材とする朝日遺跡出土の道具やアクセサリを展示する「シカで作ろう!」、各地で出土したシカを表した祭祀具を展示する「シカに祈ろう!」という3章構成で紹介しました。また、今回も中学生以下の来館者には展示をじっくり見るきっかけとなるよう、クイズ冊子「探検ブック」を配布し、キッズ考古ラボにはさわられる角や骨も用意しました。実はとても奥深い、弥生人とシカとの関係を楽しみながら観覧してもらえたのではないのでしょうか。
(田中 恵美)

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

体験水田での稲作をとおして古代米の田植えから石包丁を使った稲刈りまで 弥生体験を実践しています。



体験水田で
田植えを実施しました! 2022年 6月4日(土)



水田で稲の成長を感じながら、展示がご覧いただくと弥生時代をイメージしやすいかもしれませんね。

弥生ムラづくりプロジェクトのメインイベントである田植えを6月4日に実施しました。お天気にも恵まれ、絶好の田植え日和。みんな泥んこになって体験しました。稲の種類は、あいちのかおり、緑米、赤米の3種類。これらがどのように成長するか楽しみです。来館の際は体験水田で稲の成長もご覧下さい!体験

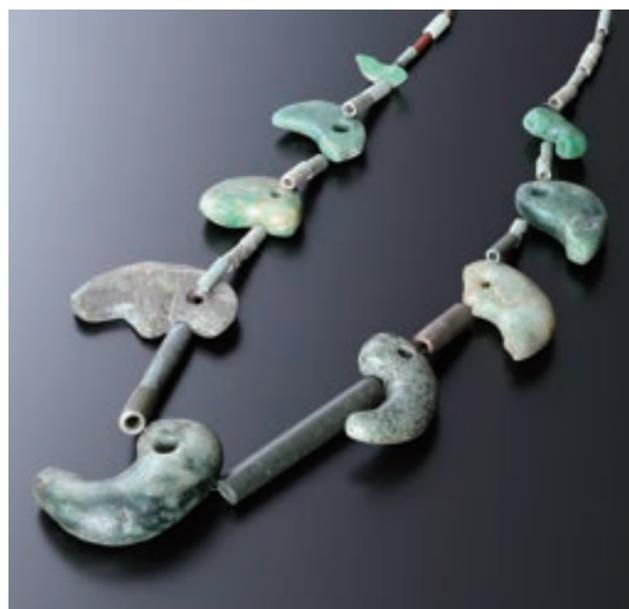
いきもの観察会 2022年 7月30日(土)



林苑課)さんに種類や名前を聞いたり、講義では外来種によって破壊されている生態系の話なども真剣に聞いていました。体験水田を通じて学びにつながればうれしいですね。

このコーナーでは、あいち朝日遺跡ミュージアムの収蔵品から、選りすぐりの資料を紹介していきます。

勾玉・管玉



勾玉・管玉



玉作りの復元イラスト

勾玉や管玉などの玉類は、身を飾るアクセサリであるとともに、身分や権威を示したり、禍から身を守る呪術的なアイテムでもありました。弥生時代の人々は、緑色の輝きのなかに特別な意味を見出していたようです。

さて、玉類の製作は朝日集落でおこなわれた手工業生産のなかでも、もっとも専門性の高いものの一つでした。工房は集落の限られたエリアに配置され、他地域産の石材や高度な技術が用いられていることから、専門の工人集団が集落内に居住していたのではないかとみられています。

工房跡からは緑色凝灰岩製の管玉、ヒスイ製の勾玉などが出土しています。原石、未製品、細かな破片といった玉類の各製作工程を示す資料の他、施溝具として用いられた石鋸、穿孔具とみられるメノウや水晶などの石錐(石針)、溝のついた砥石など、ひととおり工具類が出土しています。

玉作りは、北陸や近江からの技術的な影響がうかがえ、原石や工具類もこれらの地域から持ち込まれたと考えられます。専用の工房が備えられていたことから、玉作りに携わった技術者は外部からの移入した特殊な集団だったと考えられ、北陸方面からの原材料の入手、太平洋側での製品の流通など、広い範囲での交流に関わっていたのかもしれない。

(原田 幹)



玉の原石

企画展「北陸の弥生文化—八日市地方遺跡と東海—」開催のお知らせ

会期:2022年10月22日(土)~12月18日(日)

八日市地方遺跡(石川県小松市)は、北陸地方を代表する弥生時代の集落です。地元で産出する石材を用いた勾玉・管玉、農具や容器類をはじめとする木製品等、出土品の製作技術や完成度は極めて高く、小松市が所蔵する1,020点は国の重要文化財に指定されています。また、朝日遺跡をはじめとする東海地方の弥生文化と関係する出土品も多く、両地域の間には密接な交流があったことをうかがうことができます。

本企画展では、重要文化財八日市地方遺跡出土品をはじめ、(公財)石川県埋蔵文化財センターの行った発掘調査により出土した最新の出土品、金沢市が所蔵する出土品などにより、北陸地方の特徴的な弥生文化と東海地方の弥生文化との関係について紹介します。



企画展ポスター



アカとクロがレポートする ミュージアムの見所 (屋外編その5)

学芸員に
聞こう!



Q1 高床倉庫の近くに、木の橋があるね。でも、片側は茶色い道みたいになっているよ。どうして、ここに橋が架かっているんだろう?

これは、「環濠」といって、集落の周囲に掘られた「堀」の跡なんだ。橋の西側の深いところは、発掘調査で発見されたときの形で復元されているし、東側の道のように見えるところは、発掘調査で見つかった環濠の場所を地表で示しているんだ。

道ようになった所をたどると、少し離れて、園地の東端あたりで、貝殻が散らばっている場所があるけど、これは、環濠と貝層が発見された状態を表示しているんだ。だから、この場所の地下には、本物の環濠と貝層が埋まっているよ。



環濠に架かる木の橋



Q2 環濠って、どんな役割だったの?

橋から両側をみても、環濠が、ゆるくカーブして、貝殻山貝塚の高まりを囲むように、北の方に続いていることがわかるかな。この環濠の内側が、ムラの人たちが家を建てて住んでいた場所になるんだ。つまり、環濠は、彼らが、外敵から、自分たちのムラを守るために掘った「堀」なんだ。でもそれだけではなくて、海に近い、低い土地にあるムラの排水の役にも立っていたらしいよ。



貝層平面表示



環濠(木の橋より西側)



環濠(木の橋より東側)



Q3 集落を守るためのお堀かあ…!

あれ、でも環濠があった場所からも貝殻がたくさん出てきたんだよね? 貝殻で環濠がいっぱいになったら、集落を守れなくなっちゃうよ?

朝日遺跡の集落は、紀元前6世紀頃から3世紀頃まで、ずいぶん長い間続いていたんだ。その間には、争いが多かった時期もあるし、平穏だった期間もあったようだ。

このため、ムラを守るために、環濠を掘るだけでなく、乱杭や逆茂木をめぐらして防御力を高めた時期もあったし、逆に、環濠が手入れされずに、ごみ捨て場ようになってしまった時期もあったようだ。基本展示室1の「朝日遺跡クロニクル」の説明を読んだ人は気が付いたかもしれないけれど、実は、ジオラマにある「ヤナ」は、使われなくなって、水路ようになった環濠の中で魚を捕まえるために作られているんだ。



今回は
ベテランの
学芸員の方に
話を聞いたよ



梅本博志(あいち朝日遺跡ミュージアム学芸員)

連載(シリーズ6)



ミュージアムスタッフのこぼれ話

事業企画担当の水野です。一昨年前のリニューアルオープン準備のため、指定管理を受託したエリアワン株式会社に採用されて配属となりました。前職では3年ほど航空機の学芸員をしていました。

さて、前職では飛行機などの空飛ぶ乗り物の歴史を皆さんにお伝えするが私の仕事でしたが、現在は真逆、地中に眠る弥生時代のことを皆さんにお伝えする施設で働いています。

一見すると全く関係がなくて経験が活かせることなどないようにも思えますが、実は「鳥形木製品紙飛行機づくり」という、飛行機に関する講座を昨年冬のひと月だけ開催しました。朝日遺跡で出土した鳥形木製品を胴体にして、空を飛べるように主翼を設計して取り付け紙飛行機です。

試作した鳥形木製品紙飛行機は、夕暮れの貝殻山の頂上から、悠々と飛翔して芝生へと着陸、10~20メートルを滑空しました。しかし、体験講座として「鳥形木製品紙飛行機づくり」を開講した冬の時期、尾張地区は「伊吹お

ろし」と呼ばれる、伊吹山のある北西方面から吹いてくる強く冷たい風が吹きます。小さくて軽い紙飛行機にとってはひとたまりもありません。やむなく室内での試験飛行と相成りました。とはいえ、無風であれば飛行機は安定して飛びます。きれいに飛ばせた子どもたちの笑顔はまばゆいばかりでした。(指定管理者 水野 剛)



12月の体験講座として実施した「鳥形木製品紙飛行機」

紙飛行機は、左右対称に綺麗に作ることでよく飛ぶ秘訣。主翼や尾翼に歪みがないか、飛ばす前によく確認しよう。体験講座では、自分で色をつけたり、目玉シールを付けたりして、思い思いにデザインした。

ショップグッズ紹介
【缶バッジ】

全部で15種類ありますが、中でもオススメは「アカ」と「クロ」が描かれたピンク色の缶バッジです。あいち朝日遺跡ミュージアムのマスコットキャラクターである「アカ」と「クロ」にはそれぞれに特徴がありますが、その1つが背中中の模様です。実は…弥生犬の「アカ」は巴形銅器を思わせる模様、縄文犬の「クロ」には渦巻きの模様が背中に描かれています。(気付いた方はいるでしょうか?)このピンク色の缶バッジを見てみると、その模様を確認することができます。ぜひ、お手に取って確認してみてください。



缶バッジ ¥300(税込)

古代体験プログラムのお知らせ

土・日・祝 開催 会場: 本館・体験学習室

※2022年10月1日(土)から12月25日(日)までの土・日・祝日に開催(各日1回)
※当日ミュージアム受付にてお申し出ください。(事前予約はできません)

2022年10月限定メニュー
ミニ磨製石器づくり
■時間/15:00~(45分)

教材費 100円
各回先着 10人



作例

2022年11月限定メニュー
弥生土偶をつくろう
■時間/15:00~(60分)

教材費 300円
各回先着 10人



作例

2022年12月限定メニュー
おうちで焼ける! ミニ土器づくり
■時間/15:00~(60分)

教材費 600円
各回先着 10人



作例

イベント

「あいち朝日遺跡ミュージアム 来館者数10万人達成セレモニー」

- 日時: 2022年8月20日(土)
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム
- 内容: おかげさまで2020年11月22日のオープンから、2年足らずで来館者数が10万人を達成いたしました。記念すべき10万人目



のお客様は以前にもミュージアムに来ていただいたことがあり、「ぜひ、孫にも」とこの日に親子三代でご来館いただいたとのことでした。来館者数10万人という節目を向かえまして、より一層、朝日遺跡の歴史や文化の発信に邁進してまいります。



「野菜直売会」

- 日時: 2022年8月20日(土)
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム
- 内容: 西春日井農業協同組合による朝市を開催いたしました。清須の「土田かぼちゃ」を含む旬な野菜や、清須名物「宮重大根」などの加工品まで、地元の野菜が勢ぞろいしました。

「ナイトミュージアム」

- 日時: 2022年8月20日(土)
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム
- 内容: 夏休み的一大イベントとして、「ナイトミュージアム」を開催いたしました。当日の天気はあまり優れませんでした。多くのお客様にご来館いただきました。「愛知県埋蔵文化財センター」出展の「鑄込み体験」は、本館としては初の開催で、大変人気でした。また、「学芸員によるミニ講座」では、キッズ考古ラボの壁画を詳しく紐解いたり、展示室で流れる動画の解説や、ジオラマを双眼鏡で細かく見るガイドなどを開講しました。屋外では貝がらを用いた風鈴や、7月の古代体験プログラムでお客様が作製した高坏で復元竪穴住居をライトアップし、夜ならではの演出を行いました。



体験講座

「田植え体験」

- 講師: 原田幹(本ミュージアム学芸員)
- 日時: 2022年6月4日(土)午後1時から午後4時まで
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 体験水田
- 内容: 弥生時代の田んぼを復元した「体験水田」で、「赤米」「緑米」「あいちのかおり」の3種を、弥生時代の服(貫頭衣)を着て田植えを行いました。



「弥生マンガ教室」

- 講師: 棚園正一(漫画家)
- 日時: 2022年7月24日(日)午後1時30分から午後3時まで
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容: 清須市出身の漫画家、棚園正一先生を講師に招き、弥生時代の絵をテーマにマンガの製作を体験してもらいました。



「いきもの観察会」

- 講師: 寺本匡寛(熱田神宮宮繕部林苑課)
- 日時: 2022年7月30日(土)午前10時から正午まで
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 体験水田
- 内容: 体験水田とその周辺に棲息する生き物に焦点を当て、その観察会をとおして、水田生態系の多様性とこれをたくみに利用していた弥生時代の人々の生活について考える体験講座を開催しました。



講演会

「朝日遺跡とシカ」

- 講師: 山崎健(奈良文化財研究所 環境考古学研究室長)
- 日時: 2022年8月6日(土)午後1時30分から午後3時まで
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容: 朝日遺跡では、たくさんの動物の骨が出土し、その中に鹿も数多く含まれていました。また、鹿の角や骨を素材とした道具も見つかっています。この講演会では朝日遺跡の人々にとって鹿はどのような存在であったのか見ていきました。



講座ヒストリーカフェ

「石庖丁の使い方」

- 講師: 原田幹(本ミュージアム学芸員)
- 日時: 2022年6月18日(土)午後1時30分から午後2時30分まで
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容: 弥生時代の収穫具として学校の教科書にも載っている「石庖丁」。どのような石器で、どのような使われ方をしたのか、顕微鏡からみたミクロな視点と現代まで続く民俗学的な視点から解き明かしていきました。